

1:25,000 活断層図 山田断層帯とその周辺

「大江山」 解説

山田断層帯は、京都府北部の丹後半島基部に分布する断層帯で、山田断層帯主部と郷村断層帯に区分される。山田断層帯主部は、京都府宮津市北部から与謝郡与謝野町字岩滝、同町四辻を経て、兵庫県豊岡市但東町に至る全長約33 kmの断層帯である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2004）。本図には、山田断層帯を構成する山田断層南西部と三岳山断層のほか、多数の推定活断層が記載されている。

本図における山田断層は、与謝野町四辻から豊岡市但東町唐川まで分岐断層を伴いながら北東-南西方向に延びる長さ約15 kmの右横ずれを主体とした、北側又は北西側隆起（南又は南東落）の変位を伴う断層として記載される。豊岡市但東町唐川、虫生、中藤において、系統的な谷の右横ずれが多数確認でき、但東町唐川では、下位段丘面に上下変位が確認できる。与謝野町岩屋付近でも下位段丘面および北側の山地からの扇状地上に上下変位が認められる。また、断層東部では1927年の北丹後地震による地表地震断層が山田断層に沿って出現したことが報告されている（岡田・松田，1997）。なお、本断層の西部域については、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004）では高竜寺付近の断層と称しているが、本図では山田断層の一部とし名称は記載していない。

三岳山断層は、本図の南東部に位置し、福知山市荷稻付近から同市一ノ宮まで、北東-南西方向に延びる長さ約9 kmの右横ずれを主体とした、西側隆起（東落）の変位を伴う断層である。同市喜多付近では、系統的な谷の右横ずれが確認でき、下位段丘面が変位を受けているように見える。また同市下野条付近で上位段丘面上にも上下変位が認められることから、確実な活断層とした。

本図の北東域には、与謝野町岩屋付近から同町加悦奥に至る断層、与謝野町香河付近から同町金屋に至る断層、与謝野町与謝付近から福知山市仏谷に至る断層、滝峠付近の断層などの推定活断層が分布する。これらの断層においては、今回の調査により以下の地形的特徴が確認された。与謝野町岩屋付近から同町加悦奥に至る断層では、加悦奥付近に複数の谷の右横ずれを確認でき、北東方向に延びる直線的な谷地形が連続することから推定活断層とした。与謝野町香河付近から同町金屋に至る断層では、同町桜内から湯の谷付近に系統的な谷の右横ずれが確認でき、また同町香河付近では直線的な谷地形と尾根の鞍部地形が確認できることから推定活断層とした。与謝野町与謝付近から福知山市仏谷に至る断層は、与謝から与謝峠を通り、仏谷の西方にかけて、山地塊が北東-南西方向に雁行するように配列する。仏谷付近では、山地塊の東縁に北北東-南南西の

直線的な谷が確認でき、与謝野町与謝および二ツ岩^{ふたついわ}付近では、尾根の傾斜遷緩点が直線的に連続し、山地塊の西縁にも尾根の鞍部地形や直線的な谷地形が確認できることから推定活断層とした。滝峠^{たきとう}付近の断層では、京都府与謝野町と兵庫県豊岡市但東町との境界である滝峠^{たきとう}付近に、系統的な谷の左横ずれが東西方向に連続して確認できることから、推定活断層とした。

本図の南東域には、福知山市の城山付近から同市天座^{あまざ}一区に至る断層、福知山市天座二区から同市久保小杉野^{くぼこすぎの}に至る断層、福知山市大江町二俣^{ふたまた}付近の断層、福知山市南島^{なしま}から三国山^{みくにやま}付近に至る断層、福知山市大江町天田内^{あまだうち}付近から同市見安^{みやす}に至る断層、福知山市新町^{しんまち}から同市大江町日藤^{ひとう}付近に至る断層などの推定活断層が分布する。

これらの断層においては、今回の調査により以下の地形的特徴が確認された。福知山市の城山付近から同市天座一区に至る断層では、城山付近から同市大江町北原を通り、天座一区付近まで、傾斜遷緩点や尾根の鞍部地形が連続することから推定活断層とした。

福知山市天座二区から同市久保小杉野に至る断層は、やや地形が不明瞭な部分もあるが、尾根の鞍部地形や、西北西-東南東方向に直線的な谷の連続から推定活断層とした。

福知山市大江町二俣^{ふたまた}付近の断層では、谷の右横ずれや尾根の鞍部地形が確認でき、北西側の山地高度が高くなっていることから推定活断層とした。

福知山市南島から三国山^{みくにやま}付近に至る断層では、福知山市南島から三国山の南東部まで、尾根の鞍部地形や北東-南西方向の谷の直線的な連続が認められることから推定活断層とした。

福知山市大江町天田内^{あまだうち}付近から同市見安^{みやす}に至る断層では、同市大江町天田内から同町小原田^{おわた}を経て同町見安^{みやす}まで、尾根の傾斜遷緩点が連続することから、また、このラインよりも北側の山地高度が相対的に高くなっていることから推定活断層とした。

福知山市新町^{しんまち}から同市大江町日藤^{ひとう}付近に至る断層では、北東-南西方向に山地が連続し、その北西側に北東-南西方向のシャープな谷地形が連続する。公庄^{くじょう}駅北西側ではこの山地を貫いて由良川の支流が流下しており、周辺では尾根の鞍部地形が連続することから推定活断層とした。

本図の西域中央には、豊岡市但東町奥赤^{おくあか}付近から同市但東町栗尾^{くりお}に至る断層、豊岡市但東町矢根^{やね}付近から同市出石町^{いずしちようてらさか}寺坂^{ひがしこのおさん}に至る断層、豊岡市の東床尾山^{ひがしこのおさん}北西の断層、豊岡市但東町佐々木^{ささき}付近から福知山市現世^{げんぜ}に至る断層、豊岡市但東町大河内^{おおごうち}付近から同市但東町東中^{ひがしなか}付近に至る断層などの推定活断層が分布する。これらの断層においては、今回の調査により以下の地形的特徴が確認された。

豊岡市但東町奥赤^{おくあか}付近から同市但東町栗尾^{くりお}に至る断層では、北東-南西方向に尾根の鞍部地形と傾斜遷緩点が連続することから推定活断層とした。

豊岡市但東町矢根付近から同市出石町寺坂に至る断層では、山地内に北東-南西方向に谷の右横ずれと尾根に鞍部地形が連続することから推定活断層とした。

豊岡市の東床尾山北西の断層では、東床尾山から北西斜面の谷に系統的な右横ずれが確認でき、尾根の鞍部地形も直線的に連続することから推定活断層とした。

豊岡市但東町佐々木付近から福知山市現世に至る断層では、山地内に北東-南西方向に、尾根の鞍部地形や傾斜遷緩点の連続が認められることから推定活断層とした。

豊岡市但東町大河内付近から同市但東町東中付近に至る断層では、北東-南西方向に、尾根の鞍部地形と谷の系統的な右横ずれが直線的に連続することから推定活断層とした。

(東北大学助教 岡田真介)

引用文献

岡田篤正・松田時彦（1997）：1927年北丹後地震の地震断層．活断層研究，16，95-135．

地震調査研究推進本部地震調査委員会（2004）：山田断層帯の長期評価について．

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/74_yamada.pdf（2018年3月12日閲覧）